

災害時のセクシャルマイノリティの方々の困難や 避難所におけるニーズについての報告

Challenges Faced by Sexual Minorities During Disasters Understanding their Needs in Evacuation Centers

○北村 美和子¹, 松川 杏寧²

Miwako KITAMURA¹ and Anna MATSUKAWA²

¹ 東北大学災害科学国際研究所

International Reserch Institute of Disaster Science, Tohoku University

² 兵庫県立大学 減災復興政策研究科

Graduate School of Disaster Resilience and Governance, University of Hyogo

Disasters can exacerbate the vulnerability of sexual minority individuals, leading to their isolation and impeding their access to crucial resources and services. Through interviews and questionnaires, challenges faced by sexual minorities in the context of disasters have been identified. This report aims to present an overview of some of these surveys.

Keywords : *sexual minority ,The Great East Japan Earthquake , inclusion disaster risk reduction plannings*

1. はじめに

セクシャルマイノリティ（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニング）のコミュニティは、長い間社会的な差別や偏見に直面し¹⁾、当事者は、このような性的指向や性自認に基づく差別、社会的疎外、法的な不平等、暴力などの問題により、さまざまな困難に直面してきた²⁾。災害が多い日本ではさらに、災害時にセクシャルマイノリティの人々がさらなる脆弱性を抱える可能性がある³⁾。たとえば、避難所や災害時のマネジメントは一般的には大衆のニーズに合わせて計画されているため、セクシャルマイノリティの特有のニーズや課題に十分に対応していないことがある⁴⁾。セクシャルマイノリティの人々は、社会規範や文化的な態度、差別的な政策によって社会的に疎外されることが多く、法的な保護や公正な取り扱いを受けない状況に直面している⁵⁾。災害時には、このような既存の不正がさらなる困難な状況を引き起こし、避難所へのアクセスや適切な支援の提供に障害をもたらす可能性がある⁶⁾。

たとえば、トイレや風呂など、健康状態を保つために必要な設備についても、まだジェンダーの多様性に適応できていない状況がある⁷⁾。さらに、災害環境ではジェンダーに基づく偏見や差別が増加することもあります⁸⁾。性的指向や性自認に基づく差別やハラスメントが発生することで、セクシャルマイノリティの人々は災害時に安全でない環境や社会的な孤立を経験する可能性がある⁹⁾。また、当事者は平時からメンタルヘルスの懸念を抱えており、災害時にはストレスやトラウマが増大する可能性があるが、自身のアイデンティティを明らかにすることをためらい、適切なメンタルヘルスサービスへのアクセスが制約されている場合もある¹⁰⁾。こうした健康格差もセクシャルマイノリティの人々にとって重要な問題となっている。外見や記載された性の違いにより、一般の

人々と比較してセクシャルマイノリティの人々は医療へのアクセスの制約や健康上の格差を抱える可能性があり¹¹⁾。さらに、災害時には専門的な医療やジェンダーに配慮したケアへのアクセスが困難になることで、既存の健康格差がさらに深刻化する可能性がある¹²⁾。また、災害時には当事者支援ネットワークの不足も、セクシャルマイノリティの人々が災害時に直面する課題となりうる¹³⁾。このように災害はセクマイの人々が社会的なつながりや支援を得るために頼りにしているネットワークを破壊することがあります。これにより、脆弱性が増大し、孤立や重要なリソースやサービスへのアクセスの困難さが生じる可能性がある¹⁴⁾。これらが当事者と災害に関する背景の概要である。これらの課題を明らかにし、解決方法を探求することにより、災害時の避難所や支援システムがよりジェンダーの多様性に対応した包括的な環境を提供し、災害時のLGBTQの人々への公平な支援を実現することが、誰も取り残さない災害時の支援を実現させるための一助となる。本報告ではこれらのアンケート及びヒアリング調査のなかの東日本大震災経験者の経験について説明報告を行う。

2. 既往研究

LGBTQと災害に関する研究は近年増加しており、以下に、主な既往研究の概観を記す。災害時におけるLGBTQの人々の脆弱性と課題に焦点を当てている研究のみならず、LGBTQの人々が直面する社会的な差別や偏見へ言及し避難所や支援システムのニーズに課題が異なることが示唆されるような研究調査が主体であるが、LGBTQの人々が社会的なつながりや支援を得ることで、災害に対する強靱性（レジリエンス）を高めることができるという結果が示されている¹⁵⁾。さらに、地域のLGBTQコミュニティや支援組織との連携が重要であることも強調されている。このように災害時や平時におけるセクマイの人々がトラ

ランスジェンダーの人々が災害時に直面する課題とニーズに焦点を当てている¹⁶⁾。トランスジェンダーの人々は、性自認に関する特有のニーズや偏見が原因となる課題に直面しやすいことが示されている。Timothyらにより、災害後におけるセクマイの人々の住居の安定性に関する課題へ着目した研究も行われている¹⁷⁾性的指向や性自認に基づく差別や偏見が、住居安定性に対する否定的な影響だけでなく、肯定的な状況ももたらすことが示されている¹⁸⁾。これらの既往研究では、LGBTQの人々が災害時に直面する特有の課題や脆弱性を明らかにし、適切な支援や政策の必要性を示している。しかし、災害の多い日本で実際に災害を経験した当事者のアンケートやインタビューを基礎とし実際のニーズを示した本研究の特異性は、既往研究だけでなく当事者との信頼関係のある団体を通じた声を収集している点にある。

3. 研究方法と結果

本調査は、当事者サポート団体のネットワークを通じて、信頼できる関係がすでに構築されている環境下で災害時の困難、平時の状況そして防災に対する備え等についてオンラインアンケート調査とヒアリング等を行った。調査概要は災害時の困難、平時の状況そして防災に対する備え等であった。(回答者数は124人調査期間は2023年3月)

表1 アンケート調査対象者の概要

		身体の性的特徴			総計
		女	男	答えたくない	
主観的 女性 性自認	女	33	7	2	42
	男	23	35		58
	日によって違う	1		1	2
	どちらでもない	5	2		7
	決めない	5	1		6
	わからない	5	3		8
	答えたくない		1		1
	総計	72	49	3	124

これらの調査で得られた情報を基礎として、セクマイの人々が災害時に直面する困難の一部を記す。本報告では特にコミュニティからの孤立、健康状況等の基礎的な課題を述べる。セクマイに関する既往研究からも明らかなように、セクマイの人々は社会規範、文化的態度、差別的な政策に起因する既存の疎外に直面することが多いことが示されている¹⁸⁾。この疎外は、限定的な法的保護、雇用や住居の差別、家族の拒絶、社会的排除などの形で表層される¹⁹⁾。災害環境では、こうした既存の格差が当事者をさらに不利な立場に置き、災害時や災害後に必要な資源、支援システム、支援へのアクセスを困難にしている²⁰⁾。

当事者への偏見と差別は、災害時に特に顕著になることがあり、性的指向や性自認に基づく理由から、他の避難所の住民やスタッフから偏見や敵意に直面することも²¹⁾。その結果、安全でない環境への恐怖、孤立感を抱くことにつながることもある²²⁾。セクマイの当事者は、社会的な否定的な反応を懸念して、自身の性的指向や性自認を明かすことをためらう可能性がある²³⁾。さらに、表1-1から明らかなように、セクシャルマイノリティという表現ではまとめることのできないさまざまな性の状況が存在している。

さらに、平時からセクマイの人々は、一般の人々と比

較して健康格差に直面することが多いとされている²⁴⁾。このような格差は、医療へのアクセスの制約、タバコや薬物の使用率の高さ、メンタルヘルスにおける格差などの要因によって影響を受けます。災害時には、避難所では専門的な医療や薬、ジェンダーに配慮したケアへのアクセスが制約されたり、利用できなかったりする可能性があり、既存の健康格差を悪化させ、セクマイの人々にとって不利な健康結果をもたらすリスクを増大させることがある²⁵⁾。

災害は、セクマイの人々が社会的なつながりや肯定、援助のために頼りにしている支援ネットワークを崩壊させる可能性がある²⁶⁾。これらのネットワークには、しばしばカミングアウトをしている家族、セクマイコミュニティ組織等が含まれる²⁷⁾。これらの支援システムが災害により移転、移設、破壊されると、セクマイの人々が災害の余波に対処する能力に大きな影響を与える可能性があります²⁸⁾。これらのネットワークの喪失は、脆弱性の増大、孤立感の増加、重要なリソースやサービスへのアクセスの困難さにつながる可能性がある²⁹⁾。

3. 1 安心できる場所づくり

従来の避難所では、LGBTQの人たちのプライバシーや安全対策が十分でない場合がある³⁰⁾。寝室、浴室、更衣室を共有することは、性自認が出生時に割り当てられた性と異なる個人にとって、居心地が悪かったり、安全でなかったりすることがある³¹⁾。

さらにLGBTQの人々が自宅避難を選択する場合でも、以下のような課題が生じる可能性がある。表2は当事者が差別や偏見を経験した場についての問いであるが、日常的に安心できる場がセクマイにとっての安心できる場ではない状況もある。

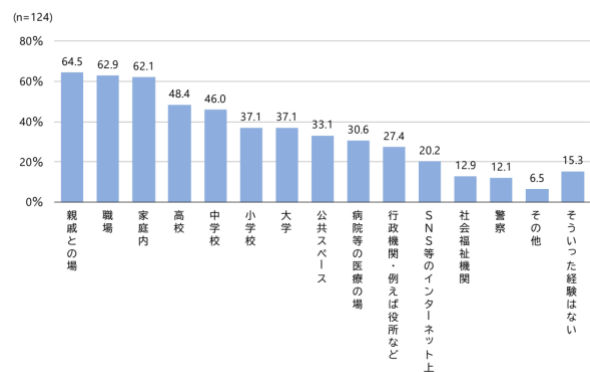


図1 当事者が差別を経験した場

セクマイの人々が家族や共同住居者と暮らしている場合、自宅避難時にはその関係による課題が生じることがあります。家族や共同住居者が当事者に対して偏見や差別的な態度を持っている場合、自宅内での安全や快適さが損なわれる可能性がある³²⁾。一例として東日本大震災経験した当事者の家族からのコメントを記す。

女の子らしい下着や洋服を着た方が似合からそうしなさい

このように、当事者自宅では自身のアイデンティティを抑制しなければならない場合があり、家族間で性的指向や性自認について開かれた議論や理解を得ることが難しい場合、心理的な負担が生じる可能性がある³³⁾。適切なメンタルヘルスサービスや医療へのアクセス、ジェンダーに配慮したケアへの困難を抱えることがある³⁴⁾。

地域の支援団体やコミュニティリソースとの連携を通

じて、LGBTQ の人々が避難時に必要なサービスやサポートにアクセスできるようにすることが課題である³⁵⁾³⁶⁾。また、従来の避難所環境ではホルモン治療、HIV の治療適切な衣服、身だしなみ用品、等へのアクセスが含まれる³⁷⁾。セクマイに配慮したサービスの欠如は、当事者の身体的・精神的健康に悪影響を与える可能性がある³⁸⁾。

見た目は男性ですがまだ手術を行っていないので胸があり、普段は胸を抑える特別な下着（通称トラシャツ）を着ていますが避難所では手に入れることができず、体を拭くこともできずとても苦しかった。

このように東日本大震災に関連するインタビューからは当事者が避難所で直面した特有の課題へ避難所が対処できていなかったことが（言い出せなかった事）が理解できる。

3. 2 災害時の避難所運営のセクマイへの配慮

避難所のスタッフやボランティアは、多様な性的指向、性自認、関連する問題の理解を含む、セクマイのに関する包括的な訓練を受けることが望まれる。避難訓練では、セクマイを尊重したコミュニケーションや安全で歓迎される環境を作るための戦略などを考慮すべきである。

シェルターは、セクマイの団体、コミュニティのリーダー、生活体験のある個人と積極的に関わることで、文化的能力を養うよう努めるべきである³⁹⁾。このような協力は、セクマイ当事者特有のニーズについての洞察を提供し、包括的な方針と実践の開発に役立ち、避難所で尊重と理解の文化を育むことが可能となる。

避難所は、セクマイの方々のみならず高齢者、精神疾患を持つ方々、介護を行なっている方々を含めた全ての避難者がをハラスメント、差別、虐待から明確に保護する方針を定めるべきである。これらの方針は、避難所の包括性へのコミットメントを強調し、違反があれば報告するための手段を提供し、すべてのスタッフ、ボランティア、および居住者に明確に伝達されるべきである⁴⁰⁾。

3. 3 セクマイサポート団体と防災計画の提携

自治体の防災課は地域のセクマイ団体とパートナーシップを結び、LGBTQ のニーズに応える能力を高めることができる。協力的な取り組みには、共同研修、専門的な支援サービスの提供、インクルーシブなシェルターの実践に関する指導などがある。このようなパートナーシップは、災害時におけるセクマイのニーズへのより包括的で効果的な対応に貢献することができる⁴¹⁾。

4. 本報告の限界と考察

本稿では、災害時特に避難所の環境においてセクマイが直面する脆弱性と、従来のシェルター慣行がもたらす課題を明らかにしたが本調査は限られた事例に基づくものであり、すべてのセクマイの事例には当てはまらない。これらの課題を認識し、セクマイのユニークなニーズを理解することで、シェルターはより包括的で支援的な環境づくりに取り組むことができる。訓練や教育、文化的能力の育成、非差別的ポリシーの策定、プライバシーと安全の確保、セクマイ団体との提携などの戦略は、包括性を育み、公平性を促進することができる。これらの問題に取り組むことで、災害対応・復興システムは、性的指向や性自認にかかわらず、すべての人に平等な支援、敬意、尊厳を提供することを祈念する。

謝辞

本研究のサポートにあたって椎太信様、有藤里様（GID Link）、三浦暢久様（NPO 法人カラフルチェンジラボ）、五十嵐ゆり様（NPO 法人 Rainbow Soup）、内田有美様（性と人権ネットワーク ESTO）、中島みつこ様（NPO 法人 LGBT の家族と友人をつなぐ会）をはじめとしてセクマイの方々をサポートしている多くの皆様に多大なるご協力を頂きました。この場を借りて御礼を申し上げます。本研究は防災科研「令和4年度災害レジリエンス向上のための社会的期待発見研究」の支援を受けて遂行されました。

参考文献

- 1) 大塚薫, 標葉隆馬. 2019. “日本の社会学分野学会におけるセクシュアルマイノリティ差別対策の現状.” グローカル研究= Journal of Glocal Studies.
- 2) 須長史生, 小倉浩, 堀川浩之, 倉田知光, and 正木啓子. 2018. “セクシュアル・マイノリティに対する大学生の意識と態度: 第1報—インターネットを活用した調査研究—.” 昭和学生会雑誌 77 (5): 530–45.
- 3) King, David. 2022. “Hearing Minority Voices: Institutional Discrimination Towards LGBTQ in Disaster and Recovery.” Journal of Extreme Events, December, 2241005.
- 4) Chatterjee, Subhankar, Payel Biswas, and Rishi Tuhin Guria. 2020. “LGBTQ Care at the Time of COVID-19.” Diabetes & Metabolic Syndrome 14 (6): 1757–58.
- 5) Salerno, John P., Jackson Devadas, M. Pease, Bryanna Nketia, and Jessica N. Fish. 2020. “Sexual and Gender Minority Stress Amid the COVID-19 Pandemic: Implications for LGBTQ Young Persons’ Mental Health and Well-Being.” Public Health Reports 135 (6): 721–27.
- 6) Abramovich, Alex Ilona. 2014. Young, Queer and Trans, Homeless, and Besieged: A Critical Action Research Study of How Policy and Culture Create Oppressive Conditions for LGBTQ Youth in Toronto’s Shelter System. University of Toronto (Canada).
- 7) 遠藤恵子. 2012. “Disasters and Gender Issues.” GEMC Journal.
- 8) 浅野幸子. 2021. “国内におけるジェンダー視点の防災政策の到達点と課題.” 公共政策志林 no. 9 (March): 54–73.
- 9) 山下梓. 2018. “災害と LGBT (特集 大規模災害と性の健康).” 性の健康= Journal of Sexual Health.
- 10) 山下梓. 2012. “「不可視」から「尊重される」地域へ: LGBT の視点から見た東日本大震災と今後の課題 (震災とジェンダー)—(災害支援・復興政策・防災にジェンダー平等の視点を).” 女も男も/労働教育センター編集部編.
- 11) 吉田 絵理子 2023. “2. SOGI に関する基礎知識, 国内外の卒前医学教育の現状.” 医学教育 54 (1): 16–22.
- 12) 匿名希望 (38 歳, コンサルタント), トランスジェンダー男性. 2023. “12. 医療者, 患者の枠を超えて伝えたい思い.” 医学教育 54 (1): 65–68.
- 13) Banerjee, Debanjan, and Vasundhara S. Nair. 2020. “‘The Untold Side of COVID-19’: Struggle and Perspectives of the Sexual Minorities.” Journal of Psychosexual Health 2 (2): 113–20.
- 14) Gorman-Murray, Andrew, Scott McKinnon, Dale Dominey-Howes, Catherine J. Nash, and Rillark Bolton. 2018. “Listening and Learning: Giving Voice to Trans Experiences of Disasters.” Gender, Place and Culture: A Journal of Feminist Geography 25

- (2): 166–87.
- 15) Ong, Jonathan Corpus. 2017. “Queer Cosmopolitanism in the Disaster zone: ‘My Grindr Became the United Nations.’” *International Communication Gazette* 79 (6-7): 656–73.
 - 16) Angelino, Alessandra, Teresa Evans-Campbell, and Bonnie Duran. 2020. “Assessing Health Provider Perspectives Regarding Barriers American Indian/Alaska Native Transgender and Two-Spirit Youth Face Accessing Healthcare.” *Journal of Racial and Ethnic Health Disparities* 7 (4): 630–42.
 - 17) Pettas, Dimitris, Athina Arampatzi, and Myrto Dagkoulou-Kyriakoglou. 2022. “LGBTQ+ Housing Vulnerability in Greece: Intersectionality, Coping Strategies And, the Role of Solidarity Networks.” *Housing Studies*, June, 1–19.
 - 18) Balgos, Benigno, J. C. Gaillard, and Kristinne Sanz. 2012. “The Wariats of Indonesia in Disaster Risk Reduction: The Case of the 2010 Mt Merapi Eruption in Indonesia.” *Gender & Development* 20 (2): 337–48.
 - 19) 高城 佳那 and 藤田久子. 2019. “学校・教育現場でのセクシュアルマイノリティとカミングアウト.” 日本教育心理学会総会発表論文集 61: 645.
 - 20) 小畑文也, 勝夏織, 合田樺恋, and 山本智美. 2022. “大学のセクシュアルマイノリティに関わるガイドラインの概要と問題点: テキストマイニングによる分析.” 山梨障害児教育学研究紀要, no. 16: 65–72.
 - 21) 福岡安則, 黒坂愛衣, and Others. 2008. “若年当事者に社会的支援を!: 20代ゲイ男性からの聞き取り.” 日本アジア研究: 埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程紀要 5: 131–50.
 - 22) Jalali, Sara, Matthew J. Levy, and Nelson Tang. 2015. “Prehospital Emergency Care Training Practices Regarding Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender Patients in Maryland (USA).” *Prehospital and Disaster Medicine* 30 (2): 163–66.
 - 23) McCormick, Adam, Karey Scheyd, and Samuel Terrazas. 2018. “Trauma-Informed Care and LGBTQ Youth: Considerations for Advancing Practice With Youth With Trauma Experiences.” *Families in Society: The Journal of Contemporary Human Services* 99 (2): 160–69.
 - 24) Fontanez, J. A. 2019. “Transgender an At-Risk Population During and Following Emergencies and Disasters.” search.proquest.com.
 - 25) アンドレアカールソン. 2020. “自殺と多様なコミュニティ: 日本の LGBTQ+, 多文化共生, その他のマイノリティーへの支援における文化的配慮.” 自殺予防と危機介入 40 (1): 8–17.
 - 26) Alibudbud, Rowalt. 2023. “Gender in Climate Change: Safeguarding LGBTQ+ Mental Health in the Philippine Climate Change Response From a Minority Stress Perspective.” *Journal of Preventive Medicine and Public Health = Yebang Uihakhoe Chi* 56 (2): 196–99.
 - 27) 加藤慶. 2023. “地域福祉計画における性的マイノリティに関する研究—地域共生社会の実現に向けた課題は何か—.” 東京通信大学紀要.
 - 28) 山下梓, 森 あい. 2019. “LGBTと防災: 災害リスクの理解とレジリエンス・尊厳.” 中央大学. September 2019.
 - 29) Fish, Jessica N., Lauren B. McInroy, Megan S. Pacey, Natasha D. Williams, Sara Henderson, Deborah S. Levine, and Rachel N. Edsall. 2020. “‘I’m Kinda Stuck at Home With Unsupportive Parents Right Now’: LGBTQ Youths’ Experiences With COVID-19 and the Importance of Online Support.” *The Journal of Adolescent Health: Official Publication of the Society for Adolescent Medicine* 67 (3): 450–52.
 - 30) 山下梓. 2013. “東日本大震災における性的マイノリティの経験と世界とのつながり.” ヒューライツ大阪. March 2013.
 - 31) 奥野斐. 2021. “災害時のLGBT対応まだまだ 本紙調査で判明 配慮明記は半数未満.” 東京新聞. February 22, 2021.
 - 32) Qwrc, Npo 法人. 2011. “災害とLGBTQ 困りごと.” NPO 法人 QWRC. March 2011.
 - 33) プライドハウス東京認定特定非営利活動法人 rebit. 2020. “LGBTQ Youth Today セクシュアル・マイノリティの若者 (12~34 歳) への新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する緊急アンケート.” プライドハウス東京. December 1, 2020.
 - 34) 三部倫子. 2020. “特別講演「LGBT から家族への問いかけ」.” 文化看護学会誌 12 (1): 1_34–1_35.
 - 35) 岩手レインボーネットワーク. 2016. “にじいろ防災ガイド.” にじいろ防災ガイド
 - 36) 虹! Take. 2020. “多様な性への理解と対応ハンドブック.” 長崎県人権・同和対策課. March 2020.
 - 37) 『カラフル@はーと』. 2020. “【オンライン学習会】医療アクセスをよくするためにできること.” 『カラフル@はーと』. November 30, 2020.
 - 38) 性同一性障害 GID 学会認定医. 2020. “性同一性障害 (GID) の治療.” 性同一性障害 GID 学会認定医. January 2020.
 - 39) 日本経済団体連合会一般社団法人. 2017. “ダイバーシティ・インクルージョン社会の実現に向けて.” Keidanren Policy and Action 一般社団法人 日本経済団体連合会. May 2017.
 - 40) Cowan, C. n.d. “LGBTQ+ People & Disasters.” Lup.lub.lu.se.
 - 41) ダイワハウス工業株式会社. 2021年8月31日. “あなたとわたしと LGBTQ+プライドハウスレガシーに学ぶ誰もが生きやすい社会を作る方法.” サステイナブルジャーニー.